

2012年度第3回 鋼構造運営委員会議事録(案)

日時： 2012年12月17日 (月) 14:00~16:30

場所： 建築会館

出席者： 一戸，井戸田，岡本，向野，澤本，吹田，竹内，多田，田中，玉井，中込，成原，  
西山，平島 (河野守委員代理)，藤澤，藤田，山田，寺田

欠席者： 緑川主査，小河，越智，笠井，金子，河野昭彦，桑村，河野守，田川，中島

資料：

03-01 2012年度 第3回鋼構造運営委員会議事予定	(緑川)
03-02 2011年度 第2回鋼構造運営委員会議事録 (案)	(寺田)
03-03 構造本委員会 (11月28日) 議案および資料抜粋	(緑川)
03-05 鋼構造接合小委員会2012年度第3回議事録 (案)	(田中)
03-06 2012年度 第3回 鋼構造制振小委員会 議事録 (案)	(緑川)
03-07 鋼構造耐火設計小委員会 第10回・11回 議事録	(河野守)
03-08 鋼構造環境小委員会 2012年度第3回議事録	(藤田)
03-10 2012年 鋼構造塑性設計小委員会 第2回・3回 議事録 (案)	(玉井)
03-11 2012年度 第3回 東日本大震災鋼構造被害検討WG議事録 (案)	(西山)
03-12 2013年度大会構造部門 (鋼構造) PD案	(山田)
03-13 重点審議資料「ミルシートおよび引張試験結果の統計調査 (中間報告)」	(山田)
03-14 関連書籍に関する質疑回答一覧	(多田)
03-15 構造委員会予算配分見直し提案について	(緑川)
03-16 2013年度 委員会活動計画案	(緑川)

(資料 -04, -09は欠番)

議事に先立ち，鉄鋼連盟からの新しい委員として一戸委員 (新日鉄住金) が紹介された。

## 議事

### 1. 前回議事録の確認(資料03-02, 寺田)

- ・事前配布された議事録案に対する修正指摘事項はなく、議事録は承認された。

### 2. 次期主査について

- ・11月に実施された次期主査選挙において，多田幹事が次期主査に選出された (委員には結果配信済)。  
多田次期主査より「よろしくお願ひします」との挨拶があった。

### 3. 構造本委員会報告(資料03-03)

資料に基づき，11月28日開催の構造本委員会の議事が報告された。鋼構造運営委員会に関係する主な点は下記の通り。

- ・構造本委員会次期委員長選挙により，構造本委員会の次期委員長に鋼構造運営委員会の (現) 緑川主査が選出された。
- ・各小委員会主査は，2012年度の活動成果報告を事務局に提出のこと。2013年2月15日まで。
- ・災害委員会委員の推薦依頼されている。鋼構造運営委員会からは，前任も2年間担当したので，今年度に引き続き西山幹事とする。

- ・鋼構造制振設計指針の構造本委員会査読委員として、吹田委員（京都大）および福和委員（名古屋大）が決定した。
- ・調査研究委員会の予算配分の見直しが行われた（関連資料03-15）。今年度に比べ各本委員会の次年度予算は全体で12%減であるが、構造本委員会の予算は7%減である。なお、鋼構造運営委員会は講習会や出版物の貢献により予算増となっている。

#### 4. 各小委員会報告

資料等に基づき各小委員会の活動が報告・審議された。主な点を記す。

##### 1) 座屈小委員会(竹内)

- ・「座屈に関する諸問題2013」の構造本委員会査読意見が手元に届いた。2013年1～2月に小委員会にて査読対応し3月15日の構造本委員会において承認されることを目指す。その後刊行し、6月11日(火)に講習会開催の予定。
- ・次年度の主査は、竹内委員から井戸田委員に交代の予定。

##### 2) 接合小委員会(資料03-05, 田中)

- ・高力ボルト接合設計施工ガイドブックの改定作業を始めている。最新の鋼構造接合設計指針と整合していない記述や14Tボルトの扱いなどを見直している。2013年度中の脱稿を目指している。
- ・ガイドブックの改定と並行し、読者からの質問が最も多い柱脚の設計に着目した「柱脚設計の諸問題(仮)」の刊行を検討している。2年後くらいを目処に進めていきたい。
- ・次年度の主査は、田中委員から増田委員(宇都宮大学)に交代する予定。

##### 3) 制振小委員会(資料03-06, 玉井)

- ・鋼構造制振設計指針の刊行予定を2014年4月に延長した。原稿は最終段階になり、小委員会の委員間で査読を進めている。今年中に原稿を脱稿し、鋼構造運営委員会査読にかける。
- ・鋼構造運営委員会の査読委員は、竹内委員および一戸委員とする。

##### 4) 耐火設計小委員会(資料03-07, 平島)

- ・耐火設計指針の改定方針を委員で検討している。改定方針(案)を資料03-07の末尾に添付している。14Tボルトの扱いなど、鋼構造接合小委員会の高力ボルトガイドブックの記述内容と連携していきたいと考えている。
- ・なお、BCPやBCRは日本鉄鋼連盟の登録商標であり、日本建築センター「冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」には、日本鉄鋼連盟製品規定に適合する冷間成形角形鋼管と規定されている。耐火設計指針だけでなく、鋼構造関係の指針類における記述には今後注意していくことが必要。

##### 5) 環境小委員会(資料03-08, 藤田)

- ・小委員会にて2013年度の活動方針案を検討している。2013年度はリユースガイドブックの素案作成を開始する。
- ・リユースガイドブックの執筆と並行し、CASBEEの次回改定(2013年4月)にリユース材を評価できる項目を追加することを働きかけていく。

##### 6) 塑性設計小委員会(資料03-10, 玉井)

- ・塑性変形性能を表す指標には、例えば累積塑性変形倍率や塑性率があるが、これらの定義方法等についても指針で定義していく。
- ・地震応答解析によって必要塑性変形性能を算定する際には、地震動の設定にも注意する必要がある。

#### 7) 東日本大震災鋼構造被害検討WG(資料03-11, 西山)

- ・2013年9月を目標に報告書を作成する。今まで3回のWGを開催し、原稿が大体集まりつつある。シェル(体育館)との調整などはWGでの原稿を整える作業の後に行う予定である。なお、WGの石原委員がシェルの委員でもあるので、不整合の無いように進める。
- ・報告書では、一つの建物に対し詳細に記述するというよりは、調査を行った多くの建物被害を広く扱う方針としている。

#### 5. 関連書籍に関する質疑回答一覧(資料03-14, 多田)

- ・会員からの質疑に対しては、引き続き担当の小委員会にて対応をお願いします。

#### 6. 2013年度(鋼構造運営)委員会活動計画案について(資料03-16)

- ・本資料は、緑川主査がまとめた次年度の鋼構造運営委員会活動計画案である。各小委員会にて、内容確認をお願いします。修正などは緑川主査へ直接連絡のこと。なお、鋼構造運営委員会の後、「環境負荷削減のための鋼構造ガイドブック(主に建物の部材のリユース)の新規刊行(2013年度)を目指し、出版物原案の作成に取り組む。」を「鋼構造リユースガイドブックの新規刊行(2015年度)を目指し、出版物原案の作成に取り組む。」に修正する意見があり、緑川主査より「既に構造本委員会に提出済みなので、今後の文書では修正版を使うようにする。」の連絡があった。

#### 7. 2013年度大会PD案について(資料03-12, 03-13, 平島)

- ・PD案の最新版(12/3)は資料03-13の末尾の通りである。テーマおよびパネリストは、概ね決定した。「まとめ」を鋼構造運営委員会委員にお願いしたい。
- ・鋼構造PDの開催は、例年通り3日目の午前とする。

#### 8. 重点審議:素材小委員会にて収集している材料の統計データのまとめ方について(資料03-13, 山田)

データの内容や整理方法などに関して議論した。主な内容、意見は下記の通り。

- ・本統計資料は非常に貴重である。過去に発表された文献などとの違いや共通点、傾向など明らかになればより重要なデータになるだろう。繰り返しのデータについては、現在収集中。
- ・鉄鋼連盟から化学成分値などの生データを提供することは難しいが、2003年の建築学会大会で発表しているSN材に関する統計データと同等なものであれば可能と考えられる。PDが予定されている次年度の建築学会大会に鉄鋼連盟から論文を投稿することを検討する(鉄連委員)。
- ・ミルシートの強度に対し、引張試験結果はやや低い傾向にある。載荷速度の影響などとも言われているが、実際にはよくわからない。TPの採取方向はあわせてある。
- ・ばらつきに関するまとめ方として、標準偏差を示すよりも変動係数のほうがわかりやすい。また、平均や変動係数に着目するだけでなく、分布形も重要である。
- ・鋼材の全量に対し、本データがどの程度の割合になっているかなども興味深い。
- ・材料のばらつきが崩壊形に及ぼす影響なども、本結果から検討できればより貴重なデータとなる。
- ・本日の意見なども参考にし、引き続き統計データをまとめていく。また、次年度の大会PDにおいて会員にも公開し、広く意見を求めてください。

#### ■次回鋼構造運営委員会(2012年度第4回)

- ・2013年3月21日(木) 13:00~15:00 建築会館にて

以上(記録:寺田)